

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 2 2 4

2 0 1 2 年

1 ~ 2 月号

設立 4 0 周年を迎える新年に当たって

会長 間野 吉幸

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては清々しい新年を迎えられたこと、お慶び申し上げます。今年も野鳥観察を楽しまれ、野鳥を通して新たな発見や思いを持たれていると思います。

さて我孫子野鳥を守る会は今年 3 月に設立 40 周年を迎えますことを皆様と共に慶びたいと思います。40 周年を迎えるに当たり 2 年前より多くの会員の手によって 40 周年事業の準備をして参りました。今年は 2 月より 4 月にかけて色々な記念事業が行われます。我々のフィールドを離れた遠出探鳥会も多く企画しますので是非ご参加下さることをお願い致します。

40 周年記念誌として会員の皆様の汗の結晶である数々の積み重ねた観察記録を二つの本として発行する予定であります。手賀沼の水鳥の観察記録と鳥便りをまとめた「手賀沼の鳥 ~ 食性別生息区分からみた水鳥の変遷 ~ 」と私たちの探鳥地をガイドブック風にまとめた「四季の手賀沼散歩 ~ 野鳥と草木と風景と ~ 」を 3 月発行することを計画しております。特に「手賀沼の鳥」に使われたデータは 30 数年に亘る記録の積み上げであり、先輩諸氏から営々と引き継がれた誇れるものであります。

野鳥を楽しむことは、単に鳥を観察することに留まりません。野鳥がどこに住み、何を食べているかなど、その暮らしぶりを観察していると、様々な野鳥を取り巻く生態系に気づき、それぞれの自然に対する係わりを知ることができます。先に述べた二つの本はこのような考えを切り口を変えて編集しました。

手賀沼の水鳥の減少は著しく、目を覆う状態にあります。1 月のカモ科の動向を、1977 年を 100 とし全国（環境省調査）と手賀沼（当会調査）を比べると、2011 年は全国が 133、手賀沼が 15 であります。今こそ手賀沼とその周辺地域での「人と野鳥（水鳥）が共存する環境づくり」が求められています。

野鳥がたくさんいることは豊かな自然がある証であり、身近にある豊かな自然は、人を癒し、活力を与えてくれます。再び手賀沼に水鳥が戻る環境づくりに皆様とともに考えたいと思います。

行 事 案 内

1月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 1月8日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 2012年最初の定例探鳥会です。カイツブリやカモ類の冬の水鳥達でにぎわう時期です。何種類の水鳥が確認できるかチャレンジしてみましょう。見上げればハヤブサやチョウゲンボウ、オオタカなどと、そして、ジョウビタキ、ベニマシコなどの小鳥たちとも新年のあいさつが出来るかも。2012年も沢山の鳥たちとの出会いを楽しみましょう！

解 散 正午
担 当 浅井

直し、波崎から江戸崎に変更しています。小見川のヨシ原ではワシタカ、神之池ではカモ類をはじめとする水鳥、江戸崎ではオオヒシクイが見所です。今回は、神之池から江戸崎に移動途中の浮島付近で珍鳥の「ホシムクドリ」も観察しています。ガンカモ類や猛禽類のほか、思わぬ出会いにも期待し、2012年の探鳥をスタートしましょう。

交 通 自家用車分乗です。便乗者は1人1,500円を運転者にお渡しく下さい。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。

持 物 観察用具、防寒具、雨具、昼食(途中購入可)

申 込 桑森亮まで
Tel/Fax: 04 - 7182 - 3149

担 当 桑森、松田

2月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 2月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 厳寒の季節ですが、鳥を見るにはベストの時期です。昨年はマヒワの当たり年で市役所前にも小群で姿を見せてくれました。今年も林間ではマヒワが、手賀沼ではミコアイサが、ヨシ原ではベニマシコがと、カラフルな鳥が私たちの目を楽しませてくれることを期待しましょう。防寒対策を忘れないように。

解 散 正午
担 当 桑森

銚子カモメ探鳥会

期 日 1月15日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前7時30分
案 内 銚子は日本有数のカモメ探鳥地です。この時期、日本のカモメ類の半分以上、みることができると言われています。又めずらしいカモメに出会えるかも知れません。年に1回でカモメの識別は少々難しいと思いますが挑戦してみましょう。皆さんの多数の参加を期待します。

交 通 自家用車分乗です。分乗者は1人1,500円を運転者にお渡しく下さい。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡下さい。

持 物 観察用具、防寒具、雨具、昼食(途中で購入可)。厳しい寒さ(特に風が冷たい)が予想されます。防寒対策をお忘れなく！

小見川・神之池・江戸崎探鳥会

期 日 1月3日(火) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 毎年恒例となっている新年の探鳥会です。前回から探鳥先の一部を見

申込 染谷迪夫まで
Tel : 04 - 7182 - 3972
担当 染谷、松本、小玉

40周年記念行事 井頭公園探鳥会

期日 2月5日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅北口ふれあい広場前
午前8時
案内 今年の井頭公園探鳥会は当会40周年記念行事として、市民の参加者を募って、市民と当会会員との探鳥会を行います。井頭公園内の探鳥路を一周し、数班に分かれて観察した鳥見数を競うバードソンを行います。
交通 貸し切りバス利用です。ただし、参加申込のあった市民をバスに優先して乗っていただきますので、当会会員、市民を合わせてバス定員45名をオーバーする場合は、オーバーする員数について当会会員は自家用車分乗とします。したがって、申込の際自家用車提供可能な方はその旨ご連絡下さい。バス利用者、乗用車分乗者いずれも交通費は2,000円です。なお、市民へのお知らせは「広報あびこ」等により行います。
持物 観察用具、防寒用具、雨具、弁当・飲み物(前もって用意のこと)
申込 猪爪敏夫まで(締切1月20日)
Tel/Fax : 04 - 7186 - 5075
担当 猪爪、小林、事務局

清里高原探鳥会

期日 2月18日(土)、19日(日)
集合 我孫子駅北口 午前8時
案内 雪の清里高原ではペンションの庭に集まる小鳥(アオゲラ、アカゲラ、イカル、シメ、カヤクグリ、ニュウ

ナイスズメ等)、リスを窓より観察します。夕方と早朝、ペンションの主人の案内で厳冬・白銀の八ヶ岳の麓、野辺山高原で探鳥します。ハギマシコ・ベニマシコの出現を期待しましょう。帰途、佐久の東電第1調整池で水鳥(ミコアイサ、カワアイサ、ヨシガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ等)とタカ類(トビ、チョウゲンボウ等)の探鳥をします。

交通 小型バス
宿舎 ねむの木ペンション
北杜市高根町清里3545
Tel 0551 - 48 - 3395
定員 15名
費用 20,000円程度、参加人数により変わります。
持物 観察用具、雨具、防寒具(戸外はマイナス10以下の厳冬ですので防寒具には留意下さい)、雪の入らない靴、洗面用具・タオル、パジャマ、常備薬等。
申込 鈴木静治まで(旅行傷害保険に年齢が必要ですので、年齢をご連絡ください)
Tel : 04 - 7169 - 4191
担当 鈴木、六角

市民手賀沼探鳥会

期日 1月29日(日) 小雨実施
集合 手賀沼親水広場 午前9時
案内 当会と我孫子市環境レンジャー共催の探鳥会です。一般市民と一緒に手賀沼遊歩道を歩いての探鳥会で、大勢の市民の方が参加されます。事前に観察出来る鳥を記入しビンゴを完成させるゲームを楽しみながら野鳥観察を行います。
多くの会員のサポートが必要となりますので参加をお待ちしております。
担当 間野、染谷、松本、佐々木

行 事 報 告

10月手賀沼探鳥会

調査日時 2011.10.9 9:00～12:00

曇り 弱風 気温 23

カモの到来が心配でしたが、コガモ、オナガガモとキンクロハジロを観察できました。猛禽類もハヤブサ、ミサゴ、チョウゲンボウとそろい、また、モズが行く先々に出現して秋のさわやかな午前を楽しませてくれました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ミサゴ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計 35 種 番外 カワラバト

<探鳥班> 肥後邦彦、大久保陸夫、田丸喜昭、和田朋之、北原建郎、常盤孝義、宮下三禮、栗田励、村瀬和則、桑森亮、田中恒雄、野口紀子、小玉文夫、松田幸保、佐藤弘美、間野吉幸、小林博之、小林美智子、船津登、武藤康之、小坂忠久、岩田孝之、岩田マキエ、天野正臣、古出洋子、野口隆也、猪爪敏夫（担当）佐々木隆 参加者 28 名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2011.10.9 9:20～12:50

晴れ時々曇り 気温 23

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	8	6	14
カワ	27	96	123
ゴイサギ	72	0	72
ダイサギ	17	16	33
チュウサギ	9	36	45
コサギ	5	8	13
アオサギ	4	4	8

コブハクチョウ	15	15	30
オドリ	1	0	1
カルガモ	61	1	62
コガモ	32	0	32
ヒドリガモ	14	0	14
オナガガモ	0	5	5
ハシロガモ	0	3	3
バン	1	0	1
オオバン	1	8	9
タビ	0	1	1
ユリカモ	0	7	7
コササギ	0	1	1
合計	267	207	474

11月手賀沼探鳥会

調査日時 2011.11.13 9:00～12:00

晴れ 無風 気温 20

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

合計 35 種

<探鳥班>村松寿夫、松田幸保、佐々木隆、栗田励、宮下三禮、池田日出男、肥後邦彦、田中恒夫、常盤孝義、北原建郎、田丸喜昭、野口隆也、間野吉幸、船津登、金子幸子、川越久枝、神谷健次郎、小林孝夫、首藤祐吉、鈴木静治、小坂忠久、小玉文夫、松本勝英、玉井修一郎、六角昭男、猪爪敏夫、古出洋子、桑森亮、成田菜穂、成田遥、成田菜、尾高由季子（担当）小林寿美子、野口紀子

参加者 34 名

<探鳥班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2011.11.13 9:30~12:25

晴れ 気温 15

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	10	20	30
カムリカイツブリ	22	21	43
カウ	27	72	99
ダイサギ	7	6	13
コサギ	7	11	18
アオサギ	9	5	14
コブハクチョウ	9	12	21
オドリ	1	0	1
マガモ	0	2	2
カガモ	5	1	6
コガモ	135	2	137
ヒドリカガモ	5	6	11
オカガモ	7	7	14
ミコアイサ	1	0	1
クイ	1	0	1
バン	3	1	4
オバン	19	19	38

タシ	0	1	1
ユリカキ	47	45	92
合計	315	231	546

手賀沼クリーン作戦

10月手賀沼探鳥会の午後、定例探鳥会を実施している手賀沼周辺のエリヤの清掃を行いました。

当会の環境保全活動の一環として毎年行っている活動です。目立ったゴミは、タバコの吸殻、ペットボトル、飲料水の空き缶、自転車などでした。

<参加者> 染谷迪夫、古出洋子、宮下三禮、間野吉幸、田中功、北原建郎、佐々木隆、小玉文夫、桑森亮、木村稔、野口紀子
参加者 11名

鳥だより

09.22 [布瀬] ハブサ(1) 鉄塔でチョウゲンボウを威嚇 鈴木静治

09.22 [布瀬] チョウゲンボウ(1) 鉄塔・電柱にとまり獲物を探す 鈴木静治

09.22 [北新田] アオサギ(1) 越流堤池で 中野久夫

09.25 [新木村下] ヒメ(7) 15:57、草地で採餌 飯泉仁・飯泉久美子

09.25 [新木村下] チョウゲンボウ(1) 16:15、南方向から出現し、地表をめがけて降下 飯泉仁・飯泉久美子

09.26 [都] ヒ(1) 上空を輪を描き飛ぶ 鈴木静治

09.27 [北新田] ヒメ(2) 畔の草上 中野久夫

09.28 [下沼田] ヒメ(1) 農道脇の葎にとまる 鈴木静治

09.28 [江蔵地] チョウゲンボウ(1) 田の上を飛び鉄塔にとまる 鈴木静治

09.30 [下沼田] チョウゲンボウ(3) 電柱・電線にとまりカラスの攻撃にキイキイ鳴く 鈴木静治

09.30 [下沼田] ハブサ(1) 水田の上空を飛ぶ 鈴木静治

10.01 [新木村下] チョウゲンボウ(2) 11:42、田圃上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子

10.01 [発作] ヒ(1) 鉄塔より飛び立ち叢の餌獲り 鈴木静治

10.01 [浅間前] チョウゲンボウ(1) 電柱より田に飛び立ち停飛し獲物を狙う 鈴木静治

10.02 [江蔵地] ハブサ(1) 鉄塔上にとまる 鈴木静治

10.02 [千間橋] チョウゲンボウ(1) 機場の底で小鳥を食べる 鈴木静治

10.02 [北新田] オカ(1) 河川敷柳上 中野久夫

10.03 [千間橋] チョウゲンボウ(1) 鉄塔から飛びまた鉄塔にとまる 鈴木静治

- 10.04 [大井新田先手賀沼] ミコ(1) 9:56、
魚を捕獲し杭に止まって食べていた
飯泉仁
- 10.04 [発作] 材効(1) 葦原上を飛び木の
繁みにとまる 鈴木静治
- 10.05 [下沼田・千間橋] 三ツクンホウ(3) 電
柱・鉄塔にとまる 鈴木静治
- 10.06 [千間橋] 八(1) 虫を啜え葦の繁
みに入る 鈴木静治
- 10.07 [下沼田] 八(2) 田の畔道にはえ
る高い草にとまる 鈴木静治
- 10.07 [布瀬] 三ツクンホウ(1) 田の上を停飛
しながら飛ぶ 鈴木静治
- 10.08 [浅間前] 八ラギ(1) ムナグロの群
れに混じって採餌 鈴木静治
- 10.08 [北新田] 八(1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 10.09 [下沼田] ハブサ(1) 鉄塔上で休み羽
づくるい 鈴木静治
- 10.09 [手賀沼] オドリ(1) 上沼 1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 10.09 [手賀沼] ミコ(2) 上沼 2
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 10.09 [手賀沼辺] ハブサ(1) 上沼 1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 10.09 [北新田] 八(1) 畔の草上
中野久夫
- 10.10 [下沼田] 八(2) 畦の杭より叢に
虫を獲りに降りる 鈴木静治
- 10.10 [古戸] 八(2) 森の上空でカラスに
攻撃される 鈴木静治
- 10.10 [古戸] 三ツクンホウ(1) トビ 2羽と上
空高く舞い上がり輪を描く 鈴木静治
- 10.10 [江蔵地] 三ツクンホウ(1) 電柱上より
飛び立つ 鈴木静治
- 10.10 [千間橋] 三ツクンホウ(1) 田の上空を
停飛しながら飛ぶ 鈴木静治
- 10.10 [布瀬新田] オドリ(1) 川をゆうゆう
と泳ぐ 鈴木静治
- 10.11 [発作] 八(1) 河原の葦にとまる
鈴木静治
- 10.11 [発作] 三ツクンホウ(1) ハシボソガラ
スに追いかけられる 鈴木静治
- 10.11 [下沼田] 八(1) 小川の岸の雑草
にとまる 鈴木静治
- 10.11 [千間橋] オドリ(2) 水面を泳ぎ葦の
繁みに入る 鈴木静治
- 10.11 [布瀬新田] 八(1) ハブサ(1)に
攻撃される 鈴木静治
- 10.11 [千間橋] ミカイツブリ(1) 水面を泳ぐ
鈴木静治
- 10.12 [千間橋] 三ツクンホウ(1) ハブサ
(1)と空中戦 鈴木静治
- 10.12 [布瀬新田] 三ツクンホウ(1) カラスに
追われる 鈴木静治
- 10.13 [岡発戸新田] ミコ(1) カラスと上
空で争う
鈴木静治 谷山晴男・猪爪敏夫・間野吉幸
- 10.14 [水道橋] 三ツクンホウ(1) 電柱側面の
金具にとまる 鈴木静治
- 10.14 [布瀬新田] 八(2) 田の上空を飛ぶ
鈴木静治
- 10.16 [千間橋] ハブサ(1) 鉄塔上にとまる
鈴木静治
- 10.16 [千間橋] 三ツクンホウ(1) 強風の中、
停飛・急降下を繰り返し獲物を探す
鈴木静治
- 10.16 [北新田] アアシギ(1) 越流堤池で
中野久夫
- 10.16 [北新田] クシギ(1) 金谷水門で
中野久夫
- 10.17 [北新田] アアシギ(1) 越流堤池で
中野久夫
- 10.18 [古戸] 三ツクンホウ(1) 停飛を繰り返
し飛ぶ 鈴木静治
- 10.18 [古戸] 八(1) 飛行中ハシボソガラ
スに絡まれる 鈴木静治
- 10.18 [北新田] アアシギ(1) 越流堤池で
中野久夫
- 10.20 [発作] 八(1) 田の上空を飛ぶ
鈴木静治
- 10.20 [千間橋] 三ツクンホウ(1) 停飛なが
ら田の上を飛ぶ 鈴木静治
- 10.21 [発作] ノリ(1) 上空を飛び、鉄塔下
部に長くともる 鈴木静治
- 10.21 [手賀新田] 三ツクンホウ(1) 田の杭に
ともる 鈴木静治
- 10.21 [千間橋] ハブサ(1) 鉄塔の上部にと
まる 鈴木静治
- 10.21 [布瀬新田] チョウ(1) 上空より田の
上を低空飛翔 鈴木静治
- 10.21 [岡発戸新田] マガモ(2) 水面を泳ぐ
鈴木静治
- 10.23 [つくし野] ジョウ(1) 、電線で

- 中野久夫
- 10.24 [片山新田先手賀沼] 比¹(1) 15:37、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.24 [北新田] 材¹(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 10.24 [北新田] 冨¹(1)ホバリング 中野久夫
- 10.24 [片山新田先手賀沼] 死¹(1) 15:45、鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.26 [下沼田] ノ¹(1) 農道の電線にとまる 鈴木静治
- 10.26 [下沼田] ハ²(2) 1羽は鉄塔上に、他の1羽は上空へ飛び去る 鈴木静治
- 10.28 [千間橋] ミ¹(1) 川の水面近くを飛び川中の杭にとまる 鈴木静治
- 10.28 [千間橋] 材¹(1) チツチツと鳴きながら川岸の葦にとまる 鈴木静治
- 10.29 [千間橋] ハ¹(1) 鉄塔上部より大空に飛び出す 鈴木静治
- 10.29 [千間橋] 材¹(1) 河原の葦の穂にとまる 鈴木静治
- 10.29 [北新田] 材¹(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 10.29 [北新田] 冨²(2) 電柱から飛去 中野久夫
- 10.29 [布瀬新田] か¹(1) 対岸よりこちらの岸に泳ぐ 鈴木静治
- 10.29 [布佐] ア¹(1) 藪より鳴き声 鈴木静治
- 10.30 [下沼田] 冨¹(1) 鉄塔上より上空に飛び立つ 鈴木静治
- 10.30 [布瀬] ノ¹(1) 電柱上に長くとまる 鈴木静治
- 10.31 [発作] 冨¹(1) 鳴きながら飛び電線にとまる 鈴木静治
- 10.31 [浅間前] ノ¹(1) 電柱にカラスと仲良くとまる 鈴木静治
- 10.31 [北新田] 材¹(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 10.31 [北新田] 冨²(2) 電柱から飛去 中野久夫
- 11.01 [戸張新田先手賀沼] ミ¹(1) 9:33、大津川河口付近の杭の上で魚を食べていた 飯泉仁
- 11.01 [片山] 比¹(1) 10:37、上空を旋回 飯泉仁
- 11.01 [浅間前] ハ¹(1) 田の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 11.01 [相島] 材¹(1) 田の畔でカラスに囲まれたが、睨みながら小鳥を食べる 鈴木静治
- 11.01 [千間橋] 材¹(1) 川岸の葦の穂にとまる 鈴木静治
- 11.01 [千間橋] 冨¹(1) 田の上を停飛しながら飛ぶ 鈴木静治
- 11.01 [布瀬] ノ¹(1) 鳥見神社の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 11.02 [下沼田] ノ¹(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 11.02 [千間橋] 比¹(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 11.02 [布瀬新田] 冨¹(1) 鉄塔上にとまる 鈴木静治
- 11.02 [鷲野谷新田] 比¹(1) 沼の上を低空で飛ぶ 鈴木静治
- 11.03 [千間橋] ハ¹(1) 鉄塔上にとまる 鈴木静治・中根忠
- 11.03 [千間橋] 冨¹(1) ノスリと飛びながら争う 鈴木静治・中根忠
- 11.03 [千間橋] ノ¹(1) チョウゲンボウと争う 鈴木静治・中根忠
- 11.04 [東中新宿] ツ²(2) 10:40、自宅南方向の上空を鳴きながら飛翔 飯泉久美子
- 11.04 [千間橋] ハ²(2) 幼鳥が鳴きながら飛んで来て鉄塔にとまると、親が飛び立つ 鈴木静治
- 11.05 [江蔵地] ハ¹(1) 鉄塔上を飛び去る 鈴木静治
- 11.05 [江蔵地] ノ¹(1) 鉄塔下部へとまる 鈴木静治
- 11.05 [布瀬] ノ¹(1)、冨¹(1)、比¹(1) ハシボソガラスに追いかけられる 鈴木静治
- 11.05 [北新田] タ¹(1) 耕田から飛立 中野久夫
- 11.07 [発作] ノ¹(1) 鉄塔上部にとまる 鈴木静治
- 11.07 [水道橋] 冨¹(1) 電柱上にとまる 鈴木静治
- 11.07 [岡発戸新田] 材²(2) 葦の穂にとまる 鈴木静治 谷山晴男・猪爪敏夫・間野吉幸
- 11.08 [千間橋] ミ¹(1) 川に沿って上空

- を飛ぶ 鈴木静治
- 11.08 [千間橋] ノリ(1) ハシボトガラスに絡まれるが、田の杭にとまる 鈴木静治
- 11.08 [水道橋] ツグミ(2) 電線に2羽とまる 鈴木静治
- 11.09 [下沼田] ハブサ(1) 鉄塔上にとまる 鈴木静治
- 11.09 [布瀬新田] ヒ(1) 鉄塔にとまる 鈴木静治
- 11.09 [布瀬新田] フウゲンボウ(1) 小鳥と一緒に飛ぶ 鈴木静治
- 11.09 [手賀新田] ヨシガモ(1) キンクロハジロと川中を泳ぐ 鈴木静治
- 11.10 [浅間前] ノリ(1) 田の杭、電柱にとまる 鈴木静治
- 11.10 [浅間前] フウゲンボウ(1) 田の上を低空で滑空し、田の土にとまる 鈴木静治
- 11.10 [千間橋] フウゲンボウ(1) カラスに追いかけられる 鈴木静治
- 11.10 [布瀬新田] ヒ(1) 鉄塔の下部にとまる 鈴木静治
- 11.10 [手賀新田] カワカ(1) 葦の繁みより飛び出す 鈴木静治
- 11.12 [古戸] フウゲンボウ(1) 電線にとまり周りを見渡す 鈴木静治
- 11.13 [手賀新田] フウゲンボウ(1) 電柱にとまり羽繕い 鈴木静治
- 11.14 [発作] フウゲンボウ(1) 鉄塔下部にとまっていたが、近づくと飛び立つ 鈴木静治
- 11.14 [都] ノリ(1) 住宅上空を何度も輪を回して飛ぶ 鈴木静治
- 11.15 [下沼田] ノリ(1) 鉄塔上部にとまり周りを見渡す 鈴木静治
- 11.15 [浅間前] フウゲンボウ(1) 田の上を低空飛行し、杭にとまる 鈴木静治
- 11.15 [布瀬] ハブサ(1) 飛んで来て鉄塔上部にとまる 鈴木静治
- 11.16 [浅間前] ハブサ(1) 電柱にとまるが、ハシボソガラスに絡まれ飛び立つ 鈴木静治
- 11.16 [浅間前] ハブサ(1) もう1羽が飛んできて鳴き、飛び去る 鈴木静治
- 11.16 [北新田] ヒ(1) 飛翔 中野久夫
- 11.16 [北新田] 材木(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 11.16 [北新田] ノリ(1) 飛翔 中野久夫

- 11.16 [北新田] フウゲンボウ(2) 電柱から飛去 中野久夫
- 11.17 [布佐] ノリ(1) 住宅上空を輪を回して飛ぶが、2羽のハシボソガラスに追いかけられる 鈴木静治
- 11.17 [千間橋] ハブサ(1) 鉄塔上より上空に飛び出す 鈴木静治
- 11.17 [北新田] カワカ(2) 2号と4号排水路で 中野久夫
- 11.18 [北新田] フウゲンボウ(2) 電柱から飛去 中野久夫
- 11.20 [浅間前] ハブサ(1) 農道より飛び立ち電柱にとまる 鈴木静治

今回寄せられた鳥の全種名

<山野の鳥>

アオジ、ウグイス、エナガ、オオタカ、オナガ、カケス、カシラダカ、カワラヒワ、キジ、キジバト、キセキレイ、コイカル、コゲラ、コチョウゲンボウ、シジュウカラ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、セッカ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ノビタキ、ハシボトガラス、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオアカ、ホオジロ、ムクドリ、メジロ、モズ

計 36 種

<水辺の鳥>

アオアシシギ、アオサギ、アジサシ、アマサギ、イソシギ、ウズラシギ、オオジュリン、オオバン、オオヨシキリ、オカヨシガモ、オシドリ、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、コアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コサギ、コブハクチョウ、スズガモ、セグロカモメ、ダイサギ、タカブシギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウサギ、チュウヒ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハブサ、バン、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ、ミサゴ、ミミカイツブリ、ムナグロ、ユリカモメ、ヨシガモ

計 46 種
合計 82 種

<番外種>

アイガモ、アヒル、エジプトガン、カワラバト、コジュケイ、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉仁	331
飯泉 仁・飯泉久美子	89
飯泉久美子	4
大久保陸夫	1
鈴木静治	361
鈴木静治・谷山晴男 ・猪爪敏夫・間野吉幸	40
鈴木静治・池田日出男	1
鈴木静治・中根忠	3
染谷迪夫・木村稔、田中功	29
中野久夫	55
平岡考	2
総計	916

(浅井 久)

1 月幹事会開催案内

日 時 1月8日(日) 13:30~16:00

場 所 水の館 3F 研修室

議 題

1. 40周年記念行事準備状況
2. 会報 225号記載記事について
3. 第3四半期会計報告
4. 報告事項
5. その他 議題提出の場合は事務局に連絡ください。

蕪栗沼のシジュウカラガン群れ、日中に伊豆沼東側田圃マガンの大群飛来

鈴木静治

湿地とそこに住む水鳥や生物の保護を国際的に進めるためのラムサール条約に登録され、鳥に関する天然記念物に指定されているマガン、ヒシクイを見るために2011/11/26-27 中野さん、神部さんの3名で、伊豆沼・蕪栗沼を訪れた。蕪栗沼マガンの「夕暮峙入り」、伊豆沼マガンの「朝の飛び立ち」で、マガン数万羽の大群を見ることができ感激した。更に蕪栗沼周辺で絶滅危惧種のシジュウカラガンの群が見られたこと 日中、伊豆沼東側の田圃に、なんと数千~数万羽のマガンが我々の見ている目の前に続々と集まる珍しい光景を観察しました。の様子を中心に報告します。

昼前、新幹線のくりこま高原駅に降り立つと風が雪風のせい冷たい。駅前で昼食後レンタカーを借り蕪栗沼に向かう。途中稲刈り後の田圃に、上空に準絶滅危惧種(現時点で絶滅の危険性は低い、生息条件の変化によっては絶滅危惧種に移行する可能性の種)のマガンが数十羽見られ、これは幸先良いと思う。午後1時過ぎに蕪栗沼に到着するが、田圃には雁が意外と少ない。周辺を探し、やっと数百羽の群を見つけ数百mまで近づくとすぐ逃げ出す。このようなことを何度も繰り返す。昨年11/20-21 観察した時は、天気も良く風もなくマガンの群に近づいても逃げなかったのに比べ、今年は風も強いせい神経質な感じである。それでも逃げない距離を保ちマガンの群を見ていると、その中に シジュウカラガンがいるのに気がつく。初めは2-3羽と思ったが、よく見ると田で採餌しているのが約30羽、飛んでいるのが約20羽いる。ふと2005年頃手賀沼にいたシジュウカラガンの仲間と身体の大いカナダガン3羽を思い出す。

後で調べてみると、野生のシジュウカラガンが50羽も見られるのは非常に珍しく、見られるのは日本では伊豆沼周辺(宮城)と福島潟(新潟)と他の2-3か所に限られている。日本へ冬鳥としてシジュウカラガンの飛来は最近では2008年59羽(うち伊豆沼周辺49羽)、2009年89羽(58羽)、2010年105羽(67羽)、2011年200羽超(145羽)と着実に増加している。また

2011年伊豆沼周辺に飛来したシジュウカラガンのうち、確認されたプラスチックカバー足環(番号付き)を装着した「標識個体」10羽のうち7年連続飛来5羽、5年連続2羽、初飛来3羽あることも増加していることを裏付けている。

このようにごく近い将来絶滅の危険性が極めて高い(絶滅危惧種 1A 類)シジュウカラガンが簡単に観察できるようになったのは、日ロ共同の「羽数回復」「渡りの復元」を目的とした千島列島のエカルマ島での繁殖・放鳥の成果である。1995-2010年合計551羽が放鳥されたためであろう。

この息の長い共同事業に日本側は、「仙台市八木山動物園」と「日本雁を保護する会」が、ロシア側は、「ロシア科学アカデミーカムチャッカ太平洋地理学研究所」が参画している。これら関係者の努力には頭の下がる思いがする。なお、昨が昨シーズンの化女沼(大崎市)から今シーズンは蕪栗沼に移ったため、幸運にも今回我々は、蕪栗沼周辺の田圃でシジュウカラガン50羽を観察できた。

シジュウカラガンを観察した後、午後3時半頃、蕪栗沼に戻るとまだ明るいのに、マガンの塀入りが始まっていた。初めの頃は10羽程度の群であるが、夕暮れの4時近く山の端が橙色に空は青色になる頃数十羽の群になり、4時半頃山の端は赤く空は紺色になると、数十羽から数百羽の群になり、5時山の端が暗くなり上空も暗くなる頃数百羽の群の次から次へと塀入りが続く。初め沼の一部にマガンが浮かぶだけであったが、最後には沼の大部分がマガンだらけになる。蕪栗沼のマガンは1万羽になっていたであろう。夕暮れ時、落雁を見ることは鳥見冥利につきるが、さすがに雪風の寒さが身にしみた。

翌日、霜の降りた中伊豆沼の西岸より、午前5-7時マガンの朝の飛び立ちを観察した。5時50分沼の東側の山の端が赤く上空が紺色になる頃マガンが数十羽から数百羽の群が水面より次々と飛び立ち始め、6時45分日の出の頃飛び立ちの最盛期となり、7時過ぎには殆ど飛び立ち水面のガンはいなくなる。いるのはオオハクチョウ、コハクチョウ、カモのみである。

宿舎で朝食後、以前、伊豆沼の東側の田圃にはヒシクイがいたとの中野さん情報に従って行くと数は多くないがマガンと絶滅危惧類(絶滅の危険が増大している種)のヒシクイ1羽見ることが出来た。さらに遠くに行ってみると数百羽のマガンの群れを見つけた。しかし近づくとすぐ逃げてしまう。今日は風も無いのに、昨日と同じように逃げ出してしまった。これを2-3回繰り返す。今日も駄目かなと思う。10時頃にやっと500-1000羽の群れを見つけ、近づくと、群れの一部は飛び立ち逃げた。11時に鳥見を切り上げて帰るため、もう他に行く時間も無いので仕方なく、そこで暫く見ていると、逃げるところか、逆にマガンが数十から数百羽の群が我々3人の見ている前の田圃に続々と舞い降り、初め田圃2-3枚いたのが入りきれなくなり10-12枚の田圃がマガンだらけになった。マガンの見えるのが始め60度の視界が150度程度まで広がっていた。28mmのレンズでも7-8枚の連続写真でやっと全体が写るほどであった。11時まで見ていたが、数千~数万羽にはなっていたであろう。壮観で感激したが、我々3名は、夢でも見ているようで、あっけにとられ、あいた口がふさがらなかった。伊豆沼・蕪栗沼に何回も来られている中野さんもこのような光景は初めてと言っていた。どうしてこの場所に集まったのかわからないが、この田の一部に水が溜まりマガンが水を飲むことが出来ること、及び農作業の車が少し通る位でのんびり休める場所で、周りを見渡せる広い場所であるからだろうか。

考えてみると、伊豆沼を朝6-7時に飛び立ち遠くで2-3時間採餌し満腹となり、伊豆沼近くに帰ってきて午前10-11時朝食後の一休みしているのであろう。多くのマガンは見張役が首を立てている少数を除き、瞼を閉じ寝ているようであった。

今回は昨年マガンの群れの中に準絶滅危惧種で、目の外縁は金色のリング状で、可愛い顔のカリガネがいたが、今回は見られなかった。しかしマガンの中に「シジュウカラガンの群を見ることができた」こと、万羽に達する「マガンの塀入り(落雁)」、「朝の飛び立ち」、「朝食後の休憩シーン」の4つを観察できたことは素晴らしことであった。これらマガン

のうち10羽でも手賀沼周辺に飛来してくれたら・・・と思いながら帰途についた。

なお、2011/11/6の伊豆沼・内沼のマガン調査ではマガン54,844羽、ハクチョウ1,162羽、カモ420羽とのことであった。

注) 本稿のシジュウカラガンの記載は仙台市八木山動物園のホームページを参考にしました。

会 員 便 り (ab-yachoより)

【カワラヒワ櫂のみを食べる】

10/13夕方、公園の櫂の小枝の先に十羽ほどの小鳥がとまって、パリパリと小さい音を立てていましたので、櫂につく虫を食べていると思い見ていると、羽の色から9-10月にはあまり見ないカワラヒワが何か食べているのが判りました。地面を見ると直径3mm程の種が沢山落ちていました。調べてみますと、櫂の種でした。秋になり実が熟すと、櫂の種は実がついた小枝の基部の離層より小枝ごと風が吹いた時離れ、空に飛び立ち、枯れた葉を翼代わりにフワフワ、クルクル飛んでいくのだそうです。櫂のような大木にこんな小さな実をつけるとはおもしろいと思いました。翌日枯れた櫂の枝が落ちていましたので、見てみますとまさに地面に落ちていたと同じ種でした。カワラヒワは草の実、ひまわりの実、ノイバラ・ナナカマド等の目立つ赤い実が好物とっていましたので、櫂の実を食べるとは意外な感じがしました。公園の櫂の下を通る時は、ぜひ、櫂の小さな種とそれを食べる小鳥を観察してみてください。(2011.10.15 鈴木静治)

【北新田】

- ・ムナグロは稲刈り後の耕起田で休んでいました。
- ・アオアシシギは越流堤池にいました。(2001.10.17 中野久夫)
- ・オオタカは越流堤横の柳にとまっていた。
- ・タゲリは北新田橋付近の上空を飛んでいました。
- ・ツグミの飛来は遅れておりまだ見られていません。(2011.11.16 中野久夫)

【我孫子でマミチャジナイ】

先日(13日)楚人冠公園を犬を連れて散歩中、犬がせっせと掘った穴から鳥の死体が出てきました。顔にはっきりした眉斑、脇に淡いオレンジ色があるがアカハラと顔が異なるのでマミチャジナイ(雄)ではと思い、我孫子では見た記憶がないので鳥博に持っていき同定してもらいました。斎藤さんは一目でマミチャジナイの幼鳥と判定されました。渡りの途中で何があったのか分かりませんが死んだ鳥を見つけた人が埋めたものようでした。鳥研の平岡さんの話では、かなりの数が渡っていくのだろうが樹冠を好んで行動するため人目に付きにくいのではないかとということでした。(2011.10.17 木村稔)

以前、都内に住んでいた経験からすると、9月~10月には、マミチャジナイは都内のあるていど大きな緑地ではよく見ているとびっくりするような珍しい鳥ではありませんでした。少なくとも私が都内に住んでいた当時は、明治神宮などでは、9~10月に小群が、高い樹冠部を落ち着かずに飛び回っているのによく出会いました。それでムクノキの実などを喜んで食べていました。ほかに都区部の複数の緑地で何度も観察しています。

大型ツグミ類なのに地面にあまり降りないというのは不思議に感じるかもしれませんが、アカハラなどでも5月の渡りの時期などに小群が落ち着かずに樹冠部を飛び回っていることはあり、おそらく種ごとの習性の違いではなく、渡りの時期が越冬期かという違いなのではな

いかと思います。

昨今は、まず鳥を識別して、ねらって写真を撮るのではなくて、写真が撮れた鳥を識別して、これは普段見ない鳥だと気づくことが多いようなので、上記のように樹冠部を飛び回っていて、カメラの方の射程に入りづらい鳥は存在が知られないということがあられるのではないかと思います。

それと双眼鏡を持って観察していても、木の上のほうにいることが多いので、声などから大型ツグミ類とわかってマミチャジナイとわかるのに少し苦勞することがあります。マミチャジナイの秋の群では多数を占めているはずの、若い個体では、脇の橙色の範囲も狭く、橙色も淡いので、下から見た場合シロハラなどと誤認する可能性もあると思います（シロハラより少し小さく見えると思いますが）。シロハラやアカハラが関東で見られるようになるのは多くの場合10月の末以降だと思いますので、9～10月中旬ぐらいまでに樹林地で大型ツグミ類を観察した場合、マミチャジナイのことは考えておく必要があると思います。

こういった経験からして、我孫子でもマミチャジナイが通っている可能性は十分にあると思って、いつも鳥研の周辺などでこの時期は気にしているのですが、私自身は出会ったことがありません。それで先日流域フォーラムで木村さんから、マミチャジナイを拾得された話を伺ったときに、案外人知れず通っているのかもしれないですね、というお話をしたわけです。ひょっとすると我孫子では珍しい鳥なのかもしれませんが、みなさんもこの時期気にしていただければ嬉しいです。（2011.10.18 平岡考）

【我孫子駅前イソヒヨドリ】

ちょっと前の投稿への返事ですが、我孫子駅前のイソヒヨドリは季節性があるような気がしますどうですか。と考えると、「手賀沼の鳥Ⅱ」を見てみると、1、3、4、12月に記録があることになってますね。木村さんの観察もそうですが、夏の終わりから秋の初めにもいることがあるように思います。この時期が移動の時期かなとおもっていましたがどうでしょうか。（2011.10.12 平岡考）

イソヒヨドリの我孫子野鳥を守る会の「鳥便り」の直近10年間の記録を調べてみました。報告件数は10年間で14件、観察された月は、1月、3月、4月、8月、11月、12月が各1年、9月が2年の報告があります。平岡さんがご指摘された夏の終わりから秋の初めにかけて観察されています。木村さんが観察されたように過去の記録も市街地の建物の上で観察されているようです。（2011.10.12 間野吉幸）

駅前の磯ヒヨドリについてのご指摘、そのとうりでないかと思います。以前、豊岡（海から遠くではありませんが）でも9月に街中で見かけました。鳥博の斎藤さんも移動の時期にあたるのではないかと言われました。短時間しか見ていないので、成鳥か幼鳥はつきり確認出来ませんでした（2011.10.13 木村稔）

【手賀沼周辺】

浅間橋周辺では、9/中旬～10/初旬手賀川の中州を埒にした数百羽のチュウサギがいなくなり、中州はコサギ、ダイサギ、アオサギまた、オオバン、カイツブリ、カルガモが見られる程度に淋しくなりました。それでも10/初めオシドリ、ミミカイツブリが2日間見られ、10/終りカンムリカイツブリ、マガモが、川岸では10/29よりホオアカが見られました。

田では9/終り～10/初旬にノビタキ、ムナグロが観察できました。タカ類は、従来より見られるハヤブサ、チョウゲンボウ、トビに加え、10/21よりノスリが、10/21チュウヒ、10/28ミサゴ、11/1オオタカが見られるようになりました。

こちらに来られる折がありましたら、田の中の高圧線鉄塔の上部、電柱の上、杭の上、田

の上、上空を見ていただければ2-3種のタカを見ることができると思います。

なお観察時間は、日中よりも早朝、夕方がよく出るようでお勧め出来ます。また冬の浅間橋から見る手賀川の夕暮れは素晴らしい景色です。(2011.11.01 鈴木静治)

最近、発作橋のコブハクチョウの数が増えている(8/18:27羽→9/8:50羽→10/7:70羽)ようなので、8/18調査時と同じ方法で手賀沼周辺のコブハクチョウの数を調べてみました。その結果、下手賀川70羽(8/18:27羽)、手賀沼25羽(48羽)、手賀川5羽(16羽)、下手賀沼2羽(1羽)計102羽(92羽)で、手賀沼・手賀川から下手賀川・発作橋へ移動するように思われました。現在手賀川で夕方コブハクチョウが手賀沼から下手賀川方面へ上空を飛ぶ様子が観察されます。コブハクチョウを見るなら、下手賀川・発作橋で見れば、手賀沼にいるコブハクチョウの7割が見えることとなります。(2011.11.03 鈴木静治)

11/1に下沼田・布瀬・発作で色々な鷹が見られることをお伝えしましたが、11/10浅間前(相島芸術村の近く)でノスリ、チョウゲンボウを観察していたところ突然腹の赤黄色に見える鳥が、田スレスレに飛んできました。後で調べてみますと、コチョウゲンボウでした。その後、ほぼ毎日チェックしていますが見られませんが渡りの途中かと思っています。なお、ツグミは未だ多くは見られませんが、11/8水道橋の電線に2羽、11/16発作の電線に1羽とまっているのを見たのみです。何時から多く見られるか楽しみにしています。(2011.11.16 鈴木静治)

【房総風土記の丘】

3日の休日に、上記へ出かけました。気温が高めのせい、冬鳥の到来には早い印象で、地上を移動する鳥たちは見かけません。11月に入ったというのに、ウグイスのホーホケキョを三回聞き、ケキョケキョが続きました。やや遠くでも、ウグイスの声が聞こえたので、多分自分の領地の主張であったのかもすれませんが、坂田ヶ池には、カルガモが多数でしたが、色の違うものが何羽かいて、若鳥か、換羽後のものだったのでしょうか。ハシビロガモのほとんどは、エクリプスで、頭の黒い状態でした。大きなカメと同じくらいのカモ一羽を見かけましたが、多分コガモのエクリプスの状態と思われる。ヤマガラの一群れと近くに。エナガの集団が賑やかに動いていました。久しぶりにデジカメを使用しましたが、マニュアルでの焦点のせいで、ピントがあまいのがまだ難点です。(2011.11.04 田丸喜昭)

【三番瀬・谷津干潟】

今日23日には、久しぶりに三番瀬へ出かけました。干潮は9時過ぎで、そのころ現地に着したところ、なんと、公園には柵がめぐらされ、公園と海岸は、まだ立ち入り禁止でした。歩道は、まだでこぼこしていて、液状化の名残です。船橋駅からのバスは、運行されていましたが、ここまでとここからの乗客はゼロです。海岸の鳥たちは、人間が入ってこないで、ゆっくり、のんびりと餌を食べていたのでしょうか。やむを得ず、谷津干潟へ移動しました。干潮ですが、アオコのために、緑の草原のような様相で、鳥たちも、餌がないせいか、わずかなヒドリガモ(まだエクリプスが終わっていない)、アオサギ、数少ないコガモ、オナガガモ、ハシビロガモが北側の公園脇に集まっていた。そこには、10数羽のセイタカシギが群れていました。干潟を一周してくるとき、ハマシギとセイタカシギの別の群れが飛び、その写真は、よく仕上がっていました。まだ、デジカメとそのソフトの使用には慣れていませんが、今日は、光線もよく、被写体も大きく、近いところにいたアオサギやヒドリガモの写真も、まあまあのものでした。

300mmレンズと2倍のテレコンを一脚につけて使用しています。(2011.11.23 田丸喜昭)

昨日(23日)の夕方のTVで「三番瀬」がありました。テーマは、アサリの密漁でした。震災の液状化による「立ち入り禁止」で人がいないので密漁者が横行しているそうです。正

規の漁師さんにしてみればダブルパンチを食ったことになっているようです。当該番組内では、名古屋（桑名）のハマグリに対しても密漁者が出没している様子もありました。採取時間を守って生活している漁師を尻目に真夜中に、やりたい放題の密漁に腹立たしい思いがしました。特に「三番瀬」では、逆切れして開き直っている様子には、反省や悔悟は微塵もない酷いものでした。彼らにシギチはどう映っているのでしょうか？ なにか本当に人間のエゴを見たようで悲しくなりました。（2011.11.24 松本勝英）

【手賀沼のミサゴ】

今までほどではありませんが、手賀沼上沼のミサゴに通っています。今年の個体は小さめの魚を獲ることが多く、その分漁の回数が多いです。また、すぐ休憩するのも特徴です。今日は、旋回して頭上に来たときに空中散布をしました。高さのせいかわ風のせいかわ、うんよく地上には達しませんでした。普通、飛び立つ前にするのですがね！ダイブをすぐ止めるので、フェイントミサコと名付けます。（2011.11.25 松田幸保）

J B F 2 0 1 1 報 告

ジャパンバードフェスティバル2011が、10月22日（土）・23日（日）親水広場、鳥の博物館駐車場（鳥博広場）など計8会場で開催されました。出展団体数130団体以上。

開催中の2日間、初日の朝方は天候が芳しくありませんでしたが、その後もちなおし、2日間ともまあまあ天候でした。28,000人（JBF実行委員会発表）の参加がありました。我が会も実行委員会の一員として下記のイベントに参加いたしました。お手伝い頂いた会員の皆さんにお礼申し上げます。尚、当会のイベントにはブース展示、定点バードウォッチング、船上バードウォッチングを合わせて2,251人が参加した。当会の会員の参加者は前日の会場設定も含めて延93名であった（染谷）

1. ブース展示

今回は40周年記念誌の一般向とデータ編の一部事前紹介という形でパネル展示を行った。パネル展示コーナーまで入ってこられる方は大変熱心で、特にこれらの内容がそれぞれの本になるということに大変興味をもって頂いたようである。来年のパネル展示コーナーは机を一つ程度にして、来場者が自由にパネルを見られる配置が望まれる。

（野口（隆））

紙芝居や鳥の塗り絵、バードクイズはこども達に非常に人気を博しました。景品つきがよかったようです。塗り絵は大人達にも好評のようでした。（宮下）

我孫子市・柏市周辺で収集した鳥の好む木・草の実の実物標本135種（市販の餌4種、木の実90種、草の実41種）を蔓性植物は吊り下げ方式、他は生け花方式で展示しました。ブースを訪れた植物好きの人は、この辺りにもこんな植物が沢山あるの（アケビ）、こんな草の実を食べるの（ヒメガマの穂）、小さい頃故郷でこの木の実（スダジイ、イヌマキ、キャラボク）を食べたと懐かしがる人、家にある植物と見比べる人、展示した知らない植物の名前を質問する人、ベランダ・小さい庭にはどんな植物を植えたらよいのか等の質問・感想があり好評でした。なお必要に応じてベランダ向け、小さい庭用、大きい庭用、公園・森用木に分類したリストを作成し配布しました。（鈴木）

2. 定点バードウォッチング

親水広場の噴水前に望遠鏡を8台備え、一般の方に手賀沼の水鳥を見てもらった。目線の低い小さい子供たちのために始めから1,2台は低い設定が必要であると思われた。

2日間で714名の方が水鳥観察を楽しんだ。（小玉）

3. 船上バードウォッチング

今年の船上バードウォッチングは2日目の便数が1便増えたこともあり、乗船希望者は全員乗船できた。今年の乗船者は我孫子市民が減り、他市からの参加者が増えた。乗船者の皆さんには、手賀沼を中心とした環境や鳥の現実に関心を持ってもらい、2日間で194名の参加者があった。(猪爪)

40周年記念行事

1. 井頭公園記念探鳥会を行います。開催日時、申込は「行事予定」をご覧ください。

2. 記念写真展

記念写真展は写真の選別も略目途がつき、これからは展示に向けての準備となります。

実施期日 平成24年3月13日(火)～18日(日) 09:30～16:30

実施場所 けやきプラザ2階第2ギャラリー

タイトル 我孫子野鳥を守る会40周年記念/会員の写真で綴る40年

手賀沼周辺に現れた珍しい鳥・身近になった野鳥及び会の活動

「40周年記念写真展 当番募集」

期間中の会場での受付や案内等お手伝いをお願い致します。午前午後それぞれ3人位で対応したいと考えております。一日でも半日でも結構ですので、お手伝い可能な方は申し出て下さい。(吉田)

申し出先 吉田隆行 電話:04-7163-9443

3. 記念講演

講演日時 平成23年3月18日(日) 13:30～15:00

講演会場 水の館3F研修室

テーマ アホウドリの生態、保護活動等について(テーマ名は未定)

講師 尾崎清明氏 山階鳥研副所長 (小玉)

4. 40周年記念パーティ

4月開催の予定ですが会場の取得の関係で、開催日時は未定です。決まり次第お知らせします

5. 40周年記念誌(データ編)「手賀沼の鳥」も最終段階に参りました。

6. 40周年記念誌(一般向)

2010年9月に記念誌(一般向)グループが発足しました。その間に編集会議、全体メンバー会議、7コースのコース調査と毎月(あるいは隔月)繰り返し1年以上にわたり30名を超える会員の皆さんが参加されました。調査も、写真も、執筆もほとんど会員の手作りです。2月末の完成を目指しているところです。(野口隆)

11月幹事会報告

日時 11月13日(日) 13:30～16:30

場所 アビスタ1F工芸工作室

議題

1. 芋煮会の実施分担について 提案通り了承された。去年と同じように奉行制で実施

2. 会報224号記載記事について 記載記事は原案通り了承され、執筆担当者も決定。

3. 会計報告(第2四半期) 会計担当の鈴木幹事が説明、了承された。

4. 創立40周年記念行事の進捗状況

一般記念誌:概ね6割の原稿はゲラ校正中、残り4割の原稿を校正中、

12月中には脱稿し、順次校正を行い、2月末には発行予定。

記念誌データ編:原稿200頁でほぼ完成。2月末までには完成の見込み。

その他：記念事業のうち、探鳥会、公開講演会、写真展については、我孫子市教育委員会の後援を得ることが出来た。今後のチラシや原稿に明記する。

< 記念事業の計画日程 >

- ・記念探鳥会：実施予定日 H24年2月5日 場所 井頭公園
- ・記念講演会：講演日 H24年3月18日 場所 水の館3F研修室
- ・記念写真展：期間 H24年3月13日~18日 場所 けやきプラザ2階
- ・記念パーティ：日時 H24年4月中 夕方 ? 会場 未定

< 平成24年度上期事業計画 >

4月	8日(日)	午前 手賀沼探鳥会とカウント	佐々木
	22日(日)	午後 定期総会 葛西臨海公園探鳥会	事務局 野口(隆)、松田
5月	4日(金・祝)	御前山探鳥会	染谷、小玉
	13日(日)	Enjoy 手賀沼とカウント、幹事会	事務局
	26日(土),27日(日)	奥日光探鳥会	松本、木村
6月	10日(日)	手賀沼探鳥会	小林、野口(紀)
	17日(日)	笹川・印旛沼探鳥会	北原、佐々木
	30日(土),7月1日(日)	奥庭・朝霧高原探鳥会	桑森、六角
7月	8日(日)	手賀沼探鳥会とカウント、幹事会	北原
	28日(日)	映写会、納涼会	野口(隆)、吉田
8月	5日(日)	ホタルの夕べ	木村、染谷
	12日(日)	手賀沼探鳥会とカウント	浅井
	26日(日)	シギチ探鳥会(場所未定)	松田、松本
9月	9日(日)	定例探鳥会とカウント、幹事会	桑森
	30日(日)	秋が瀬公園探鳥会	猪爪、桑森

トピックス

『鳥との共存をめざして 考え方と進め方』第1部第1章の定点観測法(財団法人 日本鳥類保護連盟編集 平成23年1月発行)において、山岸哲氏(山階鳥類研究所名誉所長)は「我孫子野鳥を守る会の手賀沼におけるハシビロガモの個体数の30年以上にわたる調査結果と、化学的酸素要求量(COD)の経年変化とを比べ、湖の水質の浄化とカモの個体数の減少の両者はかなり相関していることが分ると述べている。また、我が国において、鳥類を指標とした市民による身近な環境変化の監視の好例といえるだろうと結んでいる」
なお、当該図書は我孫子図書館で閲覧出来ます。

ほーほーどり No.224 (2012年1~2月号)

発行 2012年1月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel:04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)